

企画展

Museum Collection Exhibition

かたちの の チカラ

素材で魅せる

The Power of Form Captivating Material



文様をちりばめた華やかさとは対照的な、装飾をそぎ落とし素材の特性を生かしたミニマルな造形の美しさは、工芸ならではの魅力です。

今回は根津美術館のコレクションを軸に、3つの切り口で素材が形作る造形美を見つめます。ひとつは、中国の宋元時代を中心とした無文の漆器や磁器に代表される、均整と洗練を極めた唐物のかたちです。次に、長年の使用に耐えるたくましさを持った日本の用のかたちです。特に寺社の什器であった朱漆器は、後世その力強い造形に加えて塗膜の摩耗にさえも美が見いだされるようになりました。そして、新たな価値の創出に挑み続ける茶道具のかたちです。中でも、素材のバリエーションが豊かな花入と水指のかたち、また茶席では脇役としてさりげなく場を支える塗物の茶道具のかたちにあらためて光を当てます。

本展覧会では特に漆という素材に注目します。漆は、ウルシノキから採取される樹液を用いた天然の塗料であり、接着剤でもあります。塗料としての漆は、硬化すると美しい艶のある頑強な塗膜を形成します。この美しさと強さを兼ね備えた希少な素材は珍重され、古来さまざまな造形に用いられてきました。これら漆工に陶磁や金工の名品も織り交ぜながら、文様がないからこそ鮮明になる、かたちのチカラ、素材の魅力をご堪能ください。



2022年 2月26日(土) ~ 3月31日(木)

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



第1章 極まるかたち —中国・宋元の漆器と磁器—



くろうるしりんか わん
黒漆輪花椀
1口 木胎漆塗
中国・北宋時代 12世紀
根津美術館蔵 永田牧子氏寄贈



せいはいくじ りんか わん
青白磁輪花碗 景德鎮窯
1口
中国・北宋時代 11～12世紀
個人蔵

口縁を輪花に形作することは早く金属器に見られ、漆器も磁器もそれを写したと考えられている。いずれも非常に薄く作られており、洗練されたフォルムには緊張感がみなぎる。北宋時代になると唐時代から一転し、このようにジャンルを超えて無文の器物が盛行した。

第2章 用いるかたち —日本中世の朱漆器を中心に—



しゅうるしばん
朱漆盤
1枚 木胎漆塗
日本・室町時代
永正3年(1506)
根津美術館蔵

中世の寺社で日常的に用いられた朱漆器。实用ゆえのシンプルなかたちであるが、長年の使用により上塗りの朱が擦れ、中塗りの黒が所々のぞくようになった姿そのものが、賞玩の対象となった。本作は底の銘文により、制作年と使われた場所がわかる優品。

神前に酒を供える際に用いられた神饌具で、上部にボリュームのある豊満な器形。直線的に張り出した肩の部分が幅広く擦れて、朱と黒のコントラストが鮮烈である。



へいし
瓶子
1口 木胎漆塗
日本・室町時代 15～16世紀
個人蔵



はち
重要文化財 鉢
1口 銅製鍍金
日本・奈良時代 8世紀
根津美術館蔵

仏への供物入れとして用いられたと思われる鉢。口縁から裾にむかって柔らかな曲線を描いて締まる姿が特徴的で、わずかに金箔が残る。東大寺伝来とされる。

第3章 挑むかたち —茶の湯のうつわ—



重要文化財
せいじ たけのこはなはいれ りゅうせんよう
青磁竹子花入 龍泉窯
1口
中国・南宋時代 13世紀
根津美術館蔵

竹子花入とは、頸部と胴部にめぐらせた条線を筍の節に見立てた日本での呼称。均整のとれたかたちと釉色の美しさを示す、竹子花入の中でも屈指の名品。



ひだすきつるくび はなはいれ ひ ぜん
緋襷鶴首花入 備前
1口
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

重量感のある胴からすらりと伸びた首が傾いているのは、故意とも偶然とも言われる。個性的なかたちと、土の魅力をダイレクトに味わえる焼き締め肌の相まって、独特の力強さを発している。



くろうるしおねなつめ せい あ み
黒漆大甕 盛阿弥作
1合 木胎漆塗
日本・桃山時代 16～17世紀
根津美術館蔵

簡素なかたちの黒漆塗りの甕は、千利休のわび茶の深化と共に他の道具と調和するものとして重要性が増したと考えられている。作者とされる盛阿弥は、豊臣秀吉から天下一の称号を与えられた名工で、利休周辺の塗師。



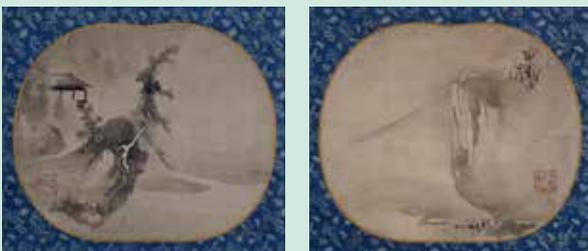
は け め ちゃわん や え むぐら
刷毛目茶碗 銘 八重葎
1口
朝鮮・朝鮮時代 16世紀
根津美術館蔵

漆を接着剤として補修に用いる金継ぎのうち、大きく欠損した部分を別の陶片で繕う「呼継」で整えられた茶碗。歪んだ面に合うピースとの奇跡の邂逅のかたち。

同時開催展

展示室5 武人画家

武門の出でありながら画人としても活動した者たち。彼ら武人画家の作品を概観するとともに、その画作の背景を探ります。



さんすいず かいほうゆうしやう
山水図 海北友松筆
2幅 紙本墨画
日本・桃山時代 16～17世紀
根津美術館蔵 小林中氏寄贈

浅井家家臣の家に生まれ、豊臣秀吉に画才を認められた海北友松による山水の対幅。小画面ながら、大胆な筆致で壮大な広がりを感じさせる優品である。

展示室6 仲春の茶事

仲春とは春の中頃のこと。虫が地中から這出る啓蟄から、春分までを指します。麗らかな春の茶席にふさわしい茶道具約20件の取り合わせです。



いろえ おうか もんみずさし ひ ぜん
色絵桜花文水指 肥前
1口
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

濃い赤や緑の絵具で、力強く桜が描かれている。古九谷様式の輸出用の鉢であったが、塗り蓋を添えることで、茶の湯の水指に生まれ変わったもの。

開催概要

展覧会名	企画展 「かたちのチカラ — 素材で魅せる —」
主 催	根津美術館
開催期間	2022年2月26日 [土]～3月31日 [木]
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日、但し3月21日(月・祝)は開館し、3月22日(火)は休館。
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) ※()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ※オンライン日時指定予約の定員に空きがある場合のみ、当日券(一般1400円)を美術館受付で販売いたします。 ※2月22日(火)より当館ホームページで受付を開始する予定です。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536(代表) website https://www.nezu-muse.or.jp

広報制作物のメール配信のお知らせ

当館の広報制作物のメール配信を開始しました。従来の郵送から、メール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館広報課(press@nezu-muse.or.jp)へどうぞお知らせください。なお、郵送とメール配信の併用はご容赦ください。

次回展 特別展

「燕子花図屏風の茶会 — 昭和12年5月の取り合わせ —」

2022年4月16日(土)～5月15日(日)

昭和12年(1937)5月、初代・根津嘉一郎(1860～1940)は茶会を催し、「燕子花図屏風」を披露しました。その時の豪華な道具組を再現します。

同時開催：

展示室5「^{がさん}画賛の楽しみ色々」

展示室6「^{しょぶろ}立夏の茶事 — 初風炉 —」



国宝
燕子花図屏風 尾形光琳筆
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵



重要文化財
鼠志野茶碗 銘山の端 美濃
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵